

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200160		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・愛宕の丘		
所在地	〒027-0093 岩手県宮古市中里団地4-11		
自己評価作成日	令和7年8月14日	評価結果市町村受理日	令和7年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がゆったりとした環境の中で気持ちよく生活出来る様コミュニケーション取りながら普段から意識している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は宮古市内の高台にある住宅団地の一角で、周辺には公園がある緑豊かな環境の中に立地している。2階建ての1階に居住スペースがあり、ホールを囲むように居室が配置されて、2階には会議室があり高い天井と吹き抜けから開放感のある明るい建物である。職員は利用者の声に耳を傾け食べたいものや出かけたい場所等、希望の把握に努めている。通院時には職員が1対1で付き添い日頃の体調について説明、受診後には家族に受診結果について手紙による丁寧な報告をしている。受診後のドライブは利用者の貴重な楽しみとなっている。万が一重度化、看取りの段階となった際には、訪問看護ステーション等の協力をいただきながら事業内で介護できる体制を整えている。機械浴での入浴が可能であり、状態に合わせた刻みやミキサー食の提供も可能となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年9月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいが 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ひとりの心を見つめるケア」を理念に利用者様一人ひとりに合わせた対応を行っている。	法人としての理念「ひとりの心を見つめるケア」を開設当時から掲げている。職員には入社時のオリエンテーションの際に説明し、事業所の玄関にも掲示して周知と徹底を図っている。介護計画の作成に当たっては、理念を念頭にしたモニタリングを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	昨年度からすこしずつ再開している。	地域の自治会に加入し回覧板等も廻ってきている。自治会主催の草取りには、参加できる利用者と職員が参加したり、また、保育所の生活発表会に声がけいただき、これが切っ掛けとなって保育所との交流を再開している。以前は地域との交流もあり、事業所2階に多くの子供たちが出入りしていた時期もあり、寂しくなったと感じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の方の理解を深める為、資格等の取得に力を入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、現在予定通り開催されている。地域の方々も、予定を合わせて出席されている。	会議は市、地域包括支援センター、駐在所、自治会長、保育所、民生委員、近隣のグループホーム職員、家族、本人等で構成されているが、参加する方が固定される傾向にある。利用者がいつもいるホールを会場とし、居ながらにして利用者の様子が良く分かるようにしている。委員からは地域での注意事項(熊の出没・感染症情報等)の話題が出される。	運営推進会議が事業所の応援団として動くことができるよう、事業所の抱える課題等について積極的に相談し意見や協力をいただく場としていくことが望まれます。また、中学生との交流や地域の認知症支援拠点としての役割をアピールできる場とするためにも、メンバーを含めた見直しが必要かと思われます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政とも情報交換、個別相談を行い協力関係を築いている。	市の担当課に週1回は訪問し、情報交換等を行っている。担当課からは、感染症にかかる情報提供のほか、災害時のメール等による情報の提供が随時あり、相互に情報の共有、交換ができています。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の「身体拘束委員会」が開催されて居り、職員に資料等の情報を周知している。	法人運営のグループホーム2カ所合同で「身体拘束委員会」を3カ月毎に開催している。年2回身体拘束と高齢者虐待についての研修を行い、職員の理解度を確認しながら皆で考える場としている。スピーチロックについても会議で話題とし、柔らかな表現にできないか検討したりして、利用者の動きを察知するための工夫を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	令和6年度の小規模介護事業所合同研修会に代表職員が参加。研修内容と資料を職員全員で共有、周知する機会を設け業務への意識づけに活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	介護に対する未経験の方の入社もあり、その都度勉強会や資格取得に力を入れ、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際不明な点等、ご家族からの質問対応を行っている。介護制度の改定の際には、改定内容など理解周知に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で行っていましたが、現在では十分出来ていない。	利用者の何気ない会話にあった食べ物や出かけた場所等を職員間で共有している。散歩に行きたいとの要望から、公園までの散歩の回数が増えている。家族は面会等で来所の機会はあるが意見・要望等を話すことはあまりなく、事業所からも聞き出すことはしていない。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りや職員会議で上がった意見などを可能な限り反映させている。	法人の専務が新人職員について、正式任用に際して面談している。管理者への要望は休暇希望や勤務時間の調整にかかること、職員増の希望がほとんどである。事業所内の修繕等は管理者が気づき法人へ掛け合い、最近では水回りの修理を実施し、現在は浴室のタイル修繕について協議中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心に関しては、自ら福祉全般の国家資格の取得を叶え、可能性や考え方を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	認知症に関しての問題を一人ひとりに解いて貰い、採点をして貰ったりどの程度認知症に対して理解しているか把握を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職員不足により、以前よりは減っているが、市や地域包括支援センターの行事には、可能な限り参加をこころがけている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様が困っている事、不安時に出される要望に耳を傾け、安心できる様支援に取り組んでいる。 また、体調不良時等の場合でも、安心して受診出来る様配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込みされる際に困っている事や、主訴となるものや表現されていないものを意識して対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームでの対応が可能なのかについて、最初の段階で見極めするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	同じ人間という立場で対応することを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	仕事を頂いているという意識は常に意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ以降自粛していたが、利用者様の希望に配慮している。	定期的に面会に来所する家族が多く、家族と一緒に外出して食事や買い物、観光を楽しみとしている。以前には友人が訪ねてきたこともある。理美容は2ヵ月毎に訪問してくれる理容師に全員お願いし、新たな馴染みの関係となりつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様のトラブルの想定や気の合う利用者同士の席の配慮など意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	何かのきっかけでお会いした時は、声を掛けたり、時間がある時は、話を聞くなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の言葉を発することが少ない方には、昔どの様な方だったのか、ご家族様からの情報をもとに、どのように考えているかイメージしながら対応している。	利用者の5~6人は自分の思いを伝えることができることから、世間話の中から思いや意向を聞き取ることができる。食べ物や出かけた場所の話題がよく出され、その話を職員間で共有し実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	実態調査票やご家族からの情報収集を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人様が体調悪そうなどときには速やかに声掛けし、バイタル測定の結果、必要な場合は受診している。骨折などで安静を余儀なくされた方に関しても、痛みの有無などの確認を行い、出来る限り早く離床出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員からの意見は出来る限り取り入れている。	ケアマネが中心となって介護計画を作成している。利用者の日々の生活でできていること、できていないことを申し送り時に確認したり個別に職員に確認している。訪問看護師にも精神面でのケアや怪我、健康状態等について相談している。作成したケアプランは利用者説明するとともに、キャビネットに保管し必要に応じて職員が見ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の申し送りや、変化を情報の分析にし計画している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様のニーズに出来る限り対応できるように努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のイベントには可能な限り参加しようと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様からの情報や、ご本人様の昔からの行きつけの病院は引き続き通院できるようにしている。	かかりつけ医の受診を支援している。家族が付き添う方もいるが、ほとんどの利用者には職員が1対1で付き添っている。診察の内容については月末の手紙で家族に報告しており、訪問看護師とも情報共有されている。看護師が週1回訪問するほか、24時間の相談対応もあり安心して介護できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に来訪する訪問看護師に状態を伝えてアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、退院支援の看護師、相談員と連絡を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り対応を行う際には、職員はもちろん訪問看護師とも情報共有し支援している。	以前からのかかりつけ医を受診している方が多く、ほとんどが職員同伴で月1回程度の受診を継続している。受診結果については、毎月の家族へのお知らせに記載しお伝えしている。看護業務は、訪問看護ステーションから看護師が週1回訪問しているほか、24時間の相談対応もあり、安心して介護できる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ある程度の対応は日頃から情報の周知をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内部での避難訓練を実施している。	年2回火災想定での避難訓練を実施しており、避難時間が短縮するなど訓練の効果もある。食糧、飲用水、おむつ等の衛生用品を備蓄しているほか、停電の際には法人のタクシーからの給電で介護再開ができることになっている。	薄暮時に訓練を実施することで、見えづらさ、暗いときの利用者の行動等を直に体験して安全に避難するために必要なことを検証し、運営推進会議メンバーで課題を共有するなど、災害対策についてさらに地域と連携することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄時や入浴時などは、プライバシーを尊重し羞恥心を傷つけないように意識して業務を行っている。	排泄時は、職員がドアの外で待ち、必要な方には中に入って衣服を上げることを手伝っている。入浴時は利用者ができるところは自分でしてもらい、手が届かない部分について介助する等、自立を促す支援を行っている。リフト浴で入浴の際には身体にタオルを掛けて露出を少なくしている。利用者間の争いごとの場合は、職員が仲裁に入り、互いに傷つかないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の気持ちを聴いたり、聴けるように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自己決定される利用者もおり、なるべく意思決定に任せている。他の利用者は、テーブルを囲んでしりとりや唱歌など歌を歌たりしている利用者様もいる。2名程ベッドで休まれる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で着替えを選べる利用者、選べない利用者があるので、選べない利用者は職員と一緒に選び自己決定されている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好品や嫌いな物の把握を行っている。片付けを利用者も行っている。	3食とも冷食を使用しており、職員はご飯とみそ汁を調理している。利用者の嫌いなものについては量を調整し、その分野菜を多くしたりと調整しながら利用者が食べられるよう対応している。利用者の希望を聞きながら、団子、いなり寿司、ケーキ作り等を楽しむ機会を設け喜ばれている。利用者には職員と一緒に盛り付け、食器洗いや食器ふき等手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる、飲む量を記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っており、出来る利用者にはご自身で行っていただける様声掛けで促し、出来ない利用者には、その都度介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者様一人ひとりの排泄サインを把握したり、時間での誘導を行っている。	布パンツが3人、リハビリパンツが4人、常時おむつ使用が2人であるが、全員排泄チェック表を活用しそれぞれに声かけをして誘導等を行っている。便秘の方には医師から処方された下剤で調節できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者様の水分や食事での摂取量を把握し、必要に応じて下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日等は、入浴チェック表を確認し決めている。場合によっては通院の状況、便の状況によって変更する場合もある。	毎日の午前中を入浴時間とし、利用者は週に2、3回入浴している。衣類の脱ぎ着が面倒なため入浴を嫌がる利用者もいるが、職員は根気よく声掛けをしたり、利用者を見計いながら支援に努めている。利用者は入浴することで気持ちがほぐれ職員との会話も弾み、よいコミュニケーションの場となっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠れない時には、飲み物の提供やホールでテレビを一緒に見る等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	基本施設で管理している。内服前に本人の薬であるか確認を行い、確実に飲み込んだか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の要望(食べたい物等)に応じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者様から要望があれば検討し、出来る範囲で対応している。	近くの公園までの散歩は天候や気温を考えながら実施し、好評により散歩の回数が増えている。家族と共に外出して食事や買い物をしてくる利用者もあり、その際には外出時に必要なものを揃えて楽しく過ごせるよう配慮している。通院の帰りに、本人が希望する海や懐かしい商店街をドライブするようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理に関しては、職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を掛ける利用者様には制限をかけているが、必要な連絡が出来るよう支援している。また、ご自身で電話を管理されている方も2名おり、ご家族様とのやり取りを居室でおこなっている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気持ちよく過ごして頂ける様に、湿度や清潔感が出る様に環境を整えている。	2階まで吹き抜けとなった空間は、陽光がたっぷり入り明るく暖かい。エアコンや加湿器で快適な状態に保たれている。クリスマスやお正月には窓にシールを貼ったり、節分には鬼の絵を飾ったりと季節感が感じられるように工夫されている。昼食後はホールの電気を消してゆったりと休めるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士の組み合わせを意識しながら配置するよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で生活されていた時から身近において安心出来ていた物を持ち込んで頂きながら、生活して頂いている。	各居室にはベッド、筆筒、3段カラーボックス、パネルヒーターが備え付けられている。仏壇や位牌の持ち込みもあり、ラジオ、カセットテープレコーダーを使用している方もいる。居室で親しい利用者と楽しい時間を過ごしている方もみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	展示物は写真のみにし、混乱をかけないようにしている。		